

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

内閣情報部監修

昭和十四年六月

國民政府の抗戰力

時局資料

310
138

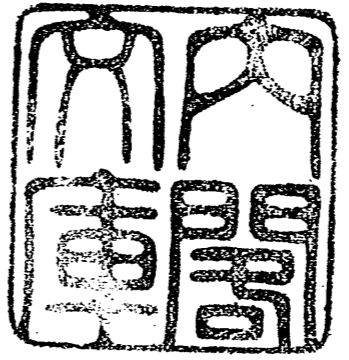
15

B10
138

凡
例

- 一、本書は時局認識の爲めの参考資料として編纂したものである。
- 二、本書の内容は成る可く廣く利用せらるゝことを希望する。
- 三、本書の全文を轉載し或は小冊子として刊行し又は一部を引用する事差支なく、其の場合には掲載せるもの三部を内閣情報部（内閣總理大臣官舎内）宛送附せられ度。尙ほ特に複製希望の向は、本書の組版を利用する便宜もある。

内閣文庫
八九四九七号
九冊
和書



目次

一、はしがき……………一

二、抗戦力の要素……………一

 1 思想的抗戦力……………二

 2 経済的抗戦力……………五

 3 軍事的抗戦力……………八

三、抗戦力の減耗……………一三

 1 軍事的抗戦力……………一三

 2 経済的抗戦力……………一六

 3 思想的抗戦力……………二二

四、國民政府の將來……………二五

五、むすび……………二六

國民政府の抗戦力

一、はしがき

皇軍の神速果敢なる進撃により南支の要衝廣東も落ち、國民政府が最大最強の抗戦據點と恃んだ武漢三鎮も落ち、南支那海の巨島海南島も落ち、残されたる補給路の中樞南昌も落ちた。國民政府は歩一步奥地に遁竄し、重慶の政府諸機關も分散して屯し、西南地方で僅に餘命を保つてゐるに過ぎない。我國は國民政府が全く一地方政權に轉落した事に烙印を捺し、相手とせざる方針を堅持し、長期建設へと邁進して居る。然し乍ら國民政府が依然その餘命を保つて長期抗戦、抗日建國を唱へて居ることは、新建設途上の大きな障礙である。蓋し國民政府の執り來つた抗日政策は、支那民衆の心髓に迄沁み込んで居り、國民政府がその餘命を保つて抗日を標榜する事は、何時までも民衆を抗日に躍らせる事であり、且又援蔣各國の援助を繼續せしむる事となるが故に、總力戦的手段を盡して之が壊滅を必要とするのである。この意味に於て國民政府の抗戦力に冷静なる検討を加へる事は決して徒爾ではない。否寧ろこの事變の深刻複雑性を知る上に、極めて肝要なる事と思はるのである。

二、抗戦力の要素

國民政府の持つ抗戦力は種々の角度から検討し得るが、大體思想、經濟、軍備の三要素に別けて考

へるのが便利である。

國民政府の抗戦力の現状に入るに先立ち、一應今次事變の初期に於ける抗戦力を検討して見やう。

1 思想的抗戦力

思想は凡てのもの、根源である。今次事變の由つて来る所は甚だ深刻であり、こゝに至る迄の思想的根據を突き止める事が、思想的抗戦力を検討することになる。即ち少くも近代支那の思想史の研究に基礎を置かねばならぬが、茲では歴史的研究が目的ではなく、極めて通俗的な解説を爲さんとするものである。近代支那を思想的に見ると

第一は歐米依存の思想である。この思想は歐米各國の東洋侵略が始まつてから數世紀に亘つて浸潤して來たものであり、概括的に見れば東亞諸國は程度に於て差こそあれ、何れも歐米の近代文化の影響を受けて居る。殊に支那は世界に残されたる唯一の植民地的存在として、歐米各國が多分の努力を以てその文化の扶植に努めた所である。近代支那の有力者インテリ層は大部分思想的には歐米に依存して居る。支那奥地への歐米各國の宗教的侵入、教育機關の設立、經濟的侵略に伴ふ文化の進出等驚く許りである。此等が歐米依存、歐米崇拜の上に大きな役割を果して居る事は否み難い。

第二は三民主義である。この思想は既に一九〇四年孫文によつて唱へられたものである。即ち民族、民権、民生といふことを中心として居り、自由民権の思想と民族主義を併せたものである。之を發

足點として世界大戰後唱へられた民族自決主義の刺戟を受け、段々國家精神を胚胎して行き、今日の抗日思想の根柢を培つて來た事は周知の通りである。國民政府は三民主義を統治施政の金科玉條として、終始一貫支那民衆の頭腦に打ち込んで行き、これが近代支那建設の根本となつたのである。

第三は共產主義思想の浸潤である。ソ聯邦の赤化政策は一時世界各國に可成りの共產思想を扶植したが、各國其の害悪を認識し之が彈壓排除に努力することとなり、歐洲に於ては失敗したが、支那に於ては相次ぐ混亂に乗じ盛んに其の魔手を延し、相當の勢力を獲得して來た。蔣介石も赤化の害悪を唱へ之が討伐にも努力して居たが、遂に彼の西安事件で國共相容るす間柄となつた。然し國共の間には依然對立的立場を解消するに至らなかつた。唯抗日の點に於ては兩黨共に相通するものがあり、殊に共產黨は對日開戦の急進勢力として今次事變を挑發し、爾來國共相提携して抗戦之れ努めて居る。

第四は侮日思想である。これには色々の原因があると思はれる。歐米の物質文明が東亞全局を侵略した結果は、支那の立場に立つて日本を歐米に比較して見れば、輕侮の念を起すのは自然の勢ではなからうか。そして歐米の勢力が大となり、支那が歐米依存となればなる程、この傾向は大となるであらう。海外への留學生でも一流のものは歐米に派遣せられ、日本に來るのは二流以下であつたとの話を聞く。又軍縮條約で日本が英米の下風に立つの錯覺を與へた事實も、或は事變前日本が支

那の對日不法事件に對し隱忍自重に努めた事も、日本與し易しと思はしめた原因となつたであらう。或は又日露戰爭當時露國が對日判斷を誤つた如く、支那が日本の舉國一致が行はれ難い事、戰爭では内亂が起ると判斷した事、日本の經濟力が貧弱なりと見た事、又一方に於て自國の軍備が逐次強化せられ、新しき兵器等が出来て來た事等も亦、排日輕侮の念を起さしめたものではなからうか。事變前上海の現實を見た支那人が、日本を歐米に比較し、輕侮するも強ち無理とは云ひ得ない事と思はれる。支那が日本を輕侮した根本には、萬一の場合歐米各國が支那を援助して呉れるといふ考へ方もあるであらう。或る親日支那人は次の如く語つた。『日本の陸軍はソ聯邦に及ばない。日本の海軍は英米に比し六割である。日本の工業力は米國に比較して到底及ばない。日本が眞に支那の抗闘をやめさせんとするならば、日本が眞に強いといふ事實を見せる必要がある。』

第五は抗日教育である。三民主義に思想根柢を置き、民族意識の昂揚に努めて來た國民政府の方針は、逐次支那民衆の排外思想を昂揚した。昭和二年南京事件の當時は相當猛烈な排英米運動を見たのであるが、その後の排外運動は日本一國のみを目標とし、英米への依存傾向を増し、滿洲事變以後は徹底せる抗日政策を執り、民衆の排日運動も亦猛烈を極めて來た。學校教育に於ては小學校から中學、大學に至る迄悉く教育の中心を抗日に置いて居た事は、その教科書、教課の内容を見れば極めて明瞭で大學生の排日デモは年中行事であつた。

社會教育に於ても亦一切の輿論指導、啓發宣傳機關を動員し徹底せる抗日教育を行つたのである。以上の如き思想的根柢と、赤化分子や急進分子の對日開戰唱導とが相俟り相俟つて、今次事變の根本原因を爲して居る。そして國民政府の長期抗日戰を可能ならしめて居る根柢も亦、斯くの如き深刻なる思想的根柢に基づくものである。

2 經濟的抗戰力

支那が稍々近代なる經濟組織を持つに至つたのはごく最近の事である。そしてその組織は蔣介石、宋子文、孔祥熙一派によつて確立せられた軍權、政權、財權の綜合の上に打ち立てられたものである。先づ昭和十年十一月英國の多大の援助の下に國民政府は新幣制を確立し、法幣を國定通貨として其の政治的軍事的支配力の下に之が流通を圖り、地方政權の財政的基礎を奪ふと共に、在外資金を擧げて國民政府の支配下に收め、着々國內統一の基礎を確立して行つたのである。即ち昭和十年末の法幣發行額は八億四千五百萬元であつたが、一ヶ年間に四億五千三百萬元を増し、十一年末には十二億九千八百萬元に達した。

次に國內金融機關を政府の支配下に置くため、昭和十年四月中央、中國、交通の三銀行に政府の出資額を増加し、又中國農民、中國實業、通商、四明の四銀行を同様政府の統制下に置き、外國資本を導入して國內の開発振興を圖るため、中國建設銀公司を昭和九年設立したのである。

一方に於て國民政府は財政の改善を企圖し、幾多の困難はあり乍らも豫算制度を確立し、實質的問題は兎も角とし、形式上國家的財政の形を備へて來たのである。

斯く幣制改革及び金融機關の統制に依る政府の金融支配力の強化は、多額の公債借換並びに公債増發を可能ならしめ、昭和十一年には實に十八億元の公債を發行、在來の雜多な公債の整理に着手することが出來たのである。

斯くの如き財政金融政策を併行して、國民政府は經濟建設計畫を實行に移しつゝあつた。その根本は孫文の建國方略に基づき、大正二年計畫せられた建國大綱中の實業計畫案が根本基準となつて居る。

昭和三年國民政府が樹立した案は、五十年間に總經費二百五十萬元を以て鐵道十萬哩、自動車路百萬哩、其他都市商港を建設し、同時に之に要する資材供給を目的とする各種工場を設立せんとする頗る大規模のもので、之が實行に於ては其の後種々の變遷はあつたが、財政金融の統制による國內資本の増大、國際聯盟との技術合作、外國資本導入等により之が促進に努めつゝあつたのである。而して右計畫が當時の支那の政情と、揚子江流域の支那經濟に對する重要性とに鑑み、差當り中部支那に於て之を施行することとした點は、我國の支那大陸經營上特に注目すべき點である。此等經濟建設に於て軍事上に關係深き事項の建設狀況は、

(イ) 昭和十一年南京の對岸浦口に設立せられた硫安工場、昭和十二年上海に設立を見た中央機械工場、昭和十年設立せられた酒精工場の外、今次事變の當初に於て湖南省株州方面に製鐵所、兵工廠及び鐵道機器廠を建造中であつたことである。

(ロ) 交通機關の整備としては第一は鐵道の建設である。大正十一年京包線竣工後約十五年間は新線の竣工を見たものはないが、昭和十年から着々新線が建設せられ、昭和十一年、十二年の二年間に四六六〇軒の鐵道が竣工し、此の内隴海、粵漢、浙贛の三大幹線が竣工して居る事は特に注目すべきである。

(ハ) 公路(主として自動車路)は支那全土に亘り昭和六年以來建設が促進せられ、特に昭和九年から同十一年末に至る三年間の建設又は工事中のものは、實に二萬餘軒に達した狀況である。

(ニ) 航空路も亦昭和四年中國航空公司の創設以來、昭和十一年迄に歐亞、西南並びに惠通の各航空会社が相次いで出現した。中國航空公司は米支合辦で約五千軒、歐亞航空公司は獨支合辦約六千七百軒、西南航空公司は支那資本で二千五百軒、惠通航空公司は日支合辦約千五百軒の航空路を經營して居たのである。

(ホ) 以上の外電信電話等の通信機關の發達、水運海運の振興に努めて居た。

以上の經濟建設に關しては外國の提携乃至援助を不可缺の要件として居ることは云ふ迄もない。

即ち國際聯盟との技術合作により、外國の優秀なる技術を受け入れ、又英米獨佛等より多額の資本を導入し、鐵道材料、自動車、飛行機、船舶等の大部分を外國に仰ぐ一方、所謂新生活運動を國民經濟建設運動に關聯せしめ、支那の近代化と國防力充實に鋭意邁進して居たのである。斯る趨勢に對し最も注目すべきは、其の推進力とも云ふべき國民政府中樞に於ける人的要素の構成である。即ち蔣介石は軍權政權を掌握し、孔祥熙、宋子文は財權を掌中に收め、所謂宋一家たる蔣、宋、孔の一派は軍事的政治的財政的統制力を以て支那統一の基礎を益々鞏固ならしめて居たものである。

3 軍事的抗戦力

前述の如く國民政府が先づ軍事的成功を以て中支方面に乗り出し、漸次財閥をその支配下に收めた事は、軍事的中央集權確立への基礎を築いた根本的要因である。中央直系軍の教育の徹底と裝備の新式化とは、到底地方軍閥をして國民政府に對抗するを得ざらしめたのである。由來支那の軍隊は各地軍閥の私兵であつて、各軍閥は其の軍隊を以て、自己の地盤の擴張と利權の爭奪に寧日なき有様であつたから、支那兵力は甚大であるにも拘らず、綜合せられたる國防軍としての對外戦力は甚だ微々たるものであつた。然るに蔣介石が一方に於て財閥を掌握し、他方に於て中央直系軍を強化するに至つたことは、漸次地方軍閥を壓倒し、今迄に見られなかつた支那の軍事的統一を、急速に實現せんとする情勢となつた。勿論實質的には共產軍とは妥協であり、各軍閥との對立は眞に解消

せられたのではないが、苟も對日問題に關しては、支那全軍が一體となつて、抗日氣分に燃え舉つて我に對抗して來たのが事變當初來の情況である。

事變當初に於ける支那の軍備は大體左の通りであつた。

(イ) 陸 軍

正規軍の總兵力約百八十六箇師二百萬と稱せられた。國民政府は昭和十一年頃よりその編制の改善、裝備の充實を企圖し、又訓練の向上、戦闘力の充實を圖り、特に對日敵愾心を昂揚して精神力の強化に努めつゝあつたのである。

(ロ) 空 軍

地方軍は殆んど空軍を持たず、殆んど總てが中央軍に屬して居る。中央直系軍が絶對的な空軍力を獲得して居た事は、地方軍を統一し得た大きな原動力であらう。

空軍の整備は昭和八年から計畫的に始まり、昭和十年末には約五百機、昭和十二年四月には約八百機を保有して居た。尙ほ着々擴張の途にあつたが、事變當初に於ては未だ航空機工業も確立せらるゝに至らず、人員の養成に就いても僅かに緒に就いたばかりであつた。

(ハ) 海 軍

事變當初に於ける海軍力は巡洋艦九、砲艦二八、河川砲艦二三、その他合計一〇六隻約七萬噸で

大部分は老朽艦であつた。

(二) 要塞及び国防工事

上海事變以來要塞の新式化に着手し、對日戦備の完成を眼目として海岸及び揚子江要塞の強化を圖りつゝあつた。

国防工事は昭和十年頃から急に開始せられ、臨海沿線、平漢沿線、津浦沿線、浙江福建方面、揚子江流域及び北部國境方面に分ち、各種の防禦施設が行はれて居た事は、今次事變の経過に徴しても明瞭である。特に上海附近に於ける要塞施設防禦工事は、相當嚴重綿密であつた事は、上海戦の経過を回顧すれば充分了解される。

以上の如き軍備充實の状態は同時に國民の抗日意識を統一し、對日敵愾心を煽動する上に看過する事の出来ない効果を收めたのである。同時に亦國防思想の普及、軍事智識の涵養並びに軍事訓練の實施等と相俟つて、此等の具體的事實の發達進展は、支那全國民をして自己の實力を過當に評價し、帝國の力量を輕侮するの風潮を促進するに至つたものである。

以上述べたる如く國民政府の持つ抗戦力は、思想、經濟、軍備の三方面から考察せられなければならぬ。此等廣範圍に亘る力量の綜合が猛烈なる勢を以て排日抗日へと邁進し、遂に今次事變を惹起するに至り、而して之等の綜合力が既に約二年間發揮せられ、尙ほ今後も細々乍ら發揮せられるものと

見なければならぬ。

支那は廣大なる土地と世界人口の約五分の一に達する四億五千萬の人口とを有し、此等が近代的に組織せられ、教育や、經濟や軍事が組織的に徹底強化せられて行つたならば、恐るべき力量を發揮し得るであらう。今次事變前に於ては實に支那はこの近代化の緒に就き、昇天の勢を以て向上の一途を辿りつゝあつたのである。その支那が心驕り排日抗日を國策となし、果ては毎日の行動を繰り返へし、事變前約三年間に實に二四六件の對日不法行爲を繰り返へし、終に今次事變を勃發せしめて我方の隱忍自重にも拘らず、全面的戦争へと導いて行つたのである。

そして斯かる推移を辿るに至つた大きな原因は、支那當局の對日認識と日支戦争豫想感である。即ち滿洲事變以來の支那要人の言説文書等に一貫して現はれた所を、要約すれば次の如きもので、一戦を交へて必ず勝算ありとなして居るのである。

一、日本國內には現状維持と現状打破との二つの相容れぬ思想對立があり、戦争とならば此の對立は益々激化し、遂に國內分裂に導き得ると考へたこと。

二、日本は資源少く、經濟力薄弱であつて、長期の戦争に堪へない。持久に伴ひ其の缺陷を暴露し經濟的に破綻を來すであらうと考へたこと。

三、列國は支那に同情し、殊にソ聯邦と英國の援助を獲得し得るが故に最後の勝利は支那に在りと

考へたこと。

四、日本の軍隊は久しく實戦の経験なく、之に反し支那軍は内亂に慣れ實戦の経験を有して居る。

支那は海軍が極めて貧弱であるから海岸の戦闘は不利であるが、日本軍を奥地に引き入れ、ロシヤがナポレオンに對して取つた「清野の戦法」を用ふれば、必ず支那に勝算ありと考へたこと。

支那側の斯かる認識豫想には當つて居る點もあるが、大きな見當違ひをなして居る點が多い。何れにしてもこの事變を契機として、根本塞源的に東亞の禍根を除き得る機會を得たことは帝國としては寧ろ天祐である。

この事變が不擴大方針で一應梟が付いて居たとしたら、その後には於て我國は更に恐るべき抗日支那を相手としての戦争を避くる能はざるに至り、拂ふべき犠牲も亦今次事變の程度では、到底濟まないであらうといふ事が想像せられる。結局今次事變は到底避くる事の出来なかつた自然の勢であり、今日に至る迄の経過を辿つて來た事は、寧ろ極めて好運であつたのである。我々はこの好機を利用して愈々初志を鞏うし、飽く迄も最後の目的貫徹に邁進しなければならぬ。國民政府を生かして置く事は將來の禍根を大ならしむ事であることを覺悟し、飽く迄も之が壊滅を期せなければならぬのである。

三、抗戦力の減耗

交戦一年九ヶ月の間に於て國民政府が受けた打撃は、殆んど致命的のものであると断定しても差支ない。抗戦力の減耗は先づ武力戦による軍事的抗戦力の喪失より始まり、經濟的抗戦力の減耗に伴ひ、然して思想的抗戦力が逐次削減されて行く。従つて軍事的に勝算なき限り國民政府は大勢全く挽回の餘地なく、没落への一途を辿るの外ない状況である。以下國民政府の抗戦力が如何に減耗せられて來たかを、軍事的、經濟的、思想的抗戦力の順序に概観して見よう。

1 軍事的抗戦力

漢口作戦前迄は、まだ相當の餘力ありと思はれた國民政府の軍事的抗戦力は、同作戦を境として、がた落ちとなつた感がある。而して國民政府の持つ軍備に對する徹底的の打撃が、彼の抗戦力を奪ふ最大のものである事は勿論であるが、本事變の持つ特異性は武力戦のみでは國民政府の潰滅を期し難く、之と併行する其の他の戦争手段を必要とする状況にある事は、特に留意を要する點である。

(イ) 陸軍

漢口作戦後に於ける陸軍の死傷数は少くとも二百萬と推定せられ、數の上に於ては事變前の兵力約二百萬を喪失せるものと見られた。その後には於ける彼の損害を合して四月末約二百二十萬と推定せられて居る。

人的資源に豊富な國民政府は手段を盡して徵募に努め、兵力の補充を圖つたので、漢口作戦後に於ても尙ほ約九十萬の兵力を擁し、昨年十二月以來蔣介石は更に軍の編制改正、補充を行ひ現兵力二百三十六ヶ師百五十萬と推定せられて居る。然し乍ら一旦大打撃を蒙り、混亂に陥つた軍隊を再編成する事はなか／＼容易な業ではない。一箇師の兵力も五、六千のものもあれば、千内外のものもあるといふ亂脈さである。更に軍需品製造能力の低劣、軍需補給力の貧弱は、その裝備を著しく低下して來たのである。又たとひ大軍を養ひ得たとしても、今日の如く運輸補給力を喪失し、水陸交通の要衝を持たざる國民政府としては、多數部隊を一地域に集結する事は事實上不可能である。

一方戦禍による國內工業力の破壊喪失は、さなきだに貧弱なりし軍需品製造能力を全く失つたと言つても過言ではない。國民政府は西南諸省に軍需品工場の建設を唱へつゝあるが、既にその技術は甚だ幼稚であり、又所要の技術職工を得ることも多大の疑問があるのみならず、物資の輸送も思ふ様にならず、國內工業力の再建など全く思ひも寄らざる情況であると推察せられる。

斯かる軍需品の缺乏を補はんとする外國への補給路は數千哩の海路を経て來る佛印及びビルマからの補給、遠く西北ソ聯邦に通ずる補給の三線しか残されて居ない。而かも此等の補給路は何れも自動車を持つ補給力しかない。道路、橋梁の不完全のためこの自動車補給さへも充分とは云ひ

難い。斯くの如く検討して行く時、蔣介石が如何に大軍を養成し得たとしても、その裝備は極めて低劣で、大體に於て小銃戦を主とする歩兵戦闘が可能の最大限であり、機械化部隊など思ひも寄らぬ。而も大軍の集中行動は困難である。結局兵力を分散して行ふ遊撃戦即ちゲリラ戦を行ふより外に方法がない。

ゲリラ戦は局部的には時に我が軍事行動を妨碍し得るが、之を以て大局を動かす事は不可能である。今日の如き戦局の情勢に於て、ゲリラ戦を以て大勢を挽回するが如きは、全く思ひも寄らざる所である。

(ロ) 空 軍

近代戦に於ては陸戦にしても海戦にしても、制空権を獲得し味方飛行機の助力を得る事が絶對必要である。されば國民政府が事變以來その財力を傾けて、外國より飛行機の輸入に努め、大打撃を蒙つた空軍の再建に狂奔したのも當然の措置である。事變當初國民政府が保有して居た約八百機に該當するものは、既に昨年二月頃撃墜又は爆破せられ、漢口陥落後に於ける喪失機數は約千六百機に達して居る。その後にも、國民政府は空軍の再建に懸命の努力を傾倒し、幾度か我が陸海荒鷲の猛攻に其の再建を挫折せられつゝも、尙ほ百五十乃至二百機を保有して居るものと推定せられて居る。然し乍ら空軍の建設は、單に外國から飛行機を購入しただけでは不可能であ

る。之を操縦する優秀なる人員の養成を必要とするは勿論、燃料兵器等の供給なくしては空軍の眞價を發揮するに由ない。物的ものは外國からの輸入に俟つとしても、人的ものはさう簡單には出来ない。外國飛行士の來援するもの二百五十乃至三百名といふ報もあるけれども、此等が果して如何なる熱意を以て國民政府のために、生命を抛つてあらうか多大の疑問がある。斯くして彼は百五十乃至二百機を標準として西南西北の奥地に配備し、主として教育訓練を行ひつゝある様子であり、外國機の輸入せられるに従ひ、時に奥地から出て來るが、其の度毎に我が陸海荒鷺の餌食となりつゝあり、又我が航空隊の奥地攻撃に依り其の再建は到底見込なき狀況である。

(ハ) 海軍

敵海軍は事變當初より全く屏息し、殆んど作戦に貢獻することなくして全滅の憂き目を見て居る。河川砲艦數隻が揚子江の上流に蠢動して居るに過ぎない狀況である。

(ニ) 要塞及び國防工事

作戦の進展に伴ひ、國民政府が事變前強化を圖つた要塞も、國防工事も今や、大部分我が占領地域に歸して終つて居る。

2 經濟的抗戦力

國民政府が經濟上受けたる打撃は極めて廣汎に亘る。先づ第一に擧ぐべきは交通機關の喪失である。我が海軍の航行遮断に依り沿岸交通の大部を失ひ、陸軍の進撃に依り鐵道交通の約六十五%を失ひ僅に局部的運行を行つて居るに過ぎず、中支交通の大動脈たる揚子江水路及びその流域の主要部分は完全に我が陸海軍に制せられ、南支に於ける水路も亦その要衝を失つて居る。

我が占據地域擴大の結果國民政府は土地と共に人口を失ひ、北中支に於ける經濟的諸施設と重要資源の大部を失ひ、假令彼が自由にし得る資源ありとしても、交通機關の喪失はその利用を極めて困難にして居る。

海上に於ける交通遮断は、國民政府の外國貿易の大部を停頓せしめ、主なる港灣の占領乃至閉塞は、彼の關稅收入を激減せしめて居る。又鹽稅、統稅も收入は著減の狀況である。

戰禍による經濟的諸施設の破壊は上海附近に於て最も甚だしく、事變の初期僅か二ヶ月間に受けたる損害のみにても、二十億元乃至三十億元に達すると云はれて居る。我が占領地域内に於ける喪失はもとより、占領地域外に於ても相次ぐ空爆に依り、その受けたる損害は測り知るべからざるものがある。

斯くして國民政府が營々建設し來つた近代的經濟組織は、殆んど根本的に破壊せられ、その財政金融の基礎は大部分を喪失して了つたのである。之に伴つて法幣も漸次その價值を低落して行き、

第三國の援助なかりせば、既にその崩壊は到底免る能はざるものと、考へられるのであるが、英國側のモラル・サポート並びに最近に於ける法幣安定資金の設定は、今日に於ても依然八片半の程度を維持して居る。

今後國民政府の經濟的抗戦力を左右するものは主として、

(イ) 外債、(ロ) 輸出入力、(ハ) 華僑の送金、(ニ) 在外資金

の大小に依るものと思はるのであるが、

(イ) 各國の國民政府に對する財的援助は左の通りである。

英 昭和十三年十二月 一千萬磅

昭和十四年二月 五百萬磅(法幣安定のため)

外に鐵道借款ある模様なるも詳細不明

米 昭和十三年十二月 二千五百萬弗

昭和十四年二月 千五百萬弗(飛行機を購入す)

同 二月 二百五十萬元

右の外、ソ聯邦及び佛よりも財的援助を爲して居る様であるが、詳細は不明である。そして此等の財的援助に對しては、國民政府はその代償として利権の提供や、特産物の供給をすること

となつて居る様である。

(ウ) 輸 出 入

事變勃發以來國民政府側の輸出入は、次の如く急激に低落して行つた。

月 別	輸 出	輸 入
昭和十二年 七月	七五・三	一一〇・九
同 十二月	二六・九	三三・八
昭和十三年 四月	二四・二	三〇・七
同 八月	三二・三	一八・二
同 十二月	一三・四	六・八
昭和十四年 二月	一三・九	六・八

(支那貿易月報に依る)

(ハ) 華僑の送金

事變以來華僑の送金額は概數不明であるが、戦局の發展に従ひ、國民政府に對する信頼は漸次薄弱となりつゝあり、特に厦門、廣東、海南島等南支方面に於ける要衝の喪失は、大部の華僑の出身地に對する不安を増大し、彼等の間に相當の動搖を來しつゝあるので、今後に於ては之等の

送金に大した期待は持ち得ない。

(二) 在外資金

事變當初八億元以上と推定せられた在外資金は逐次減少し、昭和十三年末には二億元以下になつたとの報もあつたけれども、眞偽不明である。何れにしても法幣安定の爲英國が乗り出して來た事は、在外資金が涸渇し來り、國民政府の財政の基礎が愈々薄弱となつて來た事を、實證するものであらう。

以上を綜合して國民政府の經濟的抗戦力が、低下しつゝある事をはつきり知り得るのであるが、結局此等を基礎とする輸入も、軍需品民需品として國民政府がその抗戦に利用し得るものでなければならぬ。そして此等物的資源の量は、輸出にしても輸入にしても、悉く公路の持つ輸送力特に自動車の輸送力に依つて、制限を受けるものと思はるのである。

斯くて國民政府の經濟力は悪化の一途を辿り、最早や大なる經濟的抗戦力ありとは思はれない。寧ろ其の背後にある英米等の經濟的援助が、國民政府の經濟的存立を可能ならしめて居るのである。そして英米の援助と雖も、國民政府の轉落し行く姿を正視する時、大なる危険を冒して多額の財政的援助を爲すものと思はれない。然し乍ら假令英米の援助が多額ならずとも、之に依つて國民政府が抗戦力を喪失するに至るべしとの、速断は出來ないのである。即ち英、米、ソ聯邦等の援助は、これ

を根絶する事が極めて困難なるのみならず、國民政府の企圖して居るゲリラ戦は、戦費を要する事甚だ小額であり、軍隊の生存給養に必要なものは、大部分徴發又は掠奪に依つて間に合はせ得るからである。若し國民政府にして、大軍を動かし一大決戦を以て我軍と輪贏を決せんとするが如き戦法を採るならば、彼の没落は急速に來る事必定である。

國民政府は斯かる大なる戦費を要する如き反撃を行はず、單に長期抗戦の旗印を掲げ、有るか無きかの存在を續ける事に依つて、援蔣各國の援助をつなぎ得るので、事變の深刻性は實に茲に在ると云はなければならぬと思はるのである。然し乍ら茲に注意すべきは、輸送力の問題である。即ち國民政府が如何に外債や華僑の送金などを獲得したとしても、之が彼の抗戦力となるためには、國內工業力なき現状に於ては、軍需品又は民需品、即ち物として入つて來なければならぬ。従つて西南又は西北に於ける援蔣ルートを持つ輸送力が、結局國民政府の抗戦力を左右する重大なる要素となるのである。そしてこの輸送路は、西北に於ては山岳重疊たる險路であり、西南に於ては數千哩の海上輸送から矢張り險路を経なければならず、何れのルートに於ても、結局は自動車を持つ輸送力を出せず、而かも道路、橋梁の不完全等のための大量のもの、重量の大なるもの、輸送は、極めて困難であることは特に注目すべき點である。但し飛行機のみは空中輸送が可能であるから、比較的容易に輸入し得るものと思はなければならぬ。

斯くて國民政府が西南諸省開發の急務を説き、先づ道路、鐵道の建設に躍起となつて居る理由の、何れに存するか、極めて明瞭なるのである。

3 思想的抗戦力

思想的抗戦力が極めて深刻なものであり、その由つて来る所が歴史的のものであることは、既に述べた通りである。

今次事變が既に約二ヶ年を経過し、軍事的、經濟的に國民政府の受けた打撃が、殆んど致命的のものであるに拘はらず、依然抗戦を續けて居る所以も實に茲にある。

事變以來地方軍閥にして反蔣を標榜し、國民政府に叛旗を翻したるものなく、一致して抗戦を繼續せる點、國民黨共產黨は利害相反するものあり今迄屢々國共間の分裂を傳へられたにも拘はらず、抗日戦の一點に於ては、協力一致して依然長期抗戦を繼續しつゝある點、華僑は排日貨の爲め却つて經濟的の苦境に喘ぎ、戦局の不利に失望落膽しつゝも、依然蔣介石支持の態度を捨てざるが如き點等を見る時、如何に彼等の抗日思想が根強きものであるかを實證して居るのである。

又一般支那民衆の抗日思想に於ても、今日迄の事變經過に於て、或はゲリラ部隊を援助し、テロ行爲を頻發するが如き積極的な抗日行動、或は我軍の行動に對する非協力、支那新興政權に對する不援助の如き消極的な抗日行動は、未だに支那民衆に根強き勢力を持つて居る。

支那の歴史に於て、支那民衆が今日の如く國民的團結、民族的一致を以て、その中心である政權を支持した事はないと思はれる。國民政府が過去二十餘年に亘つて養つて來た思想的抗戦力は、實にこの事變に於て殆んど遺憾なく發揮せられたものと、云ふも過言ではなからう。元來國民政府の今次事變に於ける對日認識は、日本の弱點が經濟力の貧弱、軍民の不一致、國際間に於ける孤立外交にありとなし、長期戦に導きさへすれば、尨大なる土地と人口を有し、列國の援助を獲得し得て、結局は勝利を得るであらうと云ふことにあつた。斯る認識に救ひ難き錯覺のある事は勿論、事變の經過は國民政府の見透に大きな過誤のあることは云ふ迄もないが、國民政府は今日の情勢に於て對日抗戦を捨てることが、自らの存在を抛棄否定することゝなるが故に、その誤つた認識を決して改めようとはしない。然し乍ら事變以來彼の受けたる軍事的、經濟的打撃は漸次その思想的抗戦力を削減しつゝある。既に成立を見た臨時、維新、蒙疆各政府は勿論、漢口廣東等各地に於ける治安維持會の結成は、彼の抗日思想陣營に大きな破綻を來した事を實證するものであり、更に我軍と協力する治安維持隊が誕生し、匪賊討伐に従事しつゝあるのは、國民政府にとつては大きな脅威となるのである。

次に注目すべきは支那民衆生活の特異性であらう。即ち支那民衆は今次事變に於て多大の戦禍を蒙り、國民生活上に受くる苦痛の甚だ大なること察するに難くないが、然かもこの苦痛よりして國

民政府に對する怨嗟の聲を放ち、民衆的叛亂を起すが如きは到底豫想せられない點である。實に支那五千年の歴史に於ては内亂相次ぎ、民衆にとつては戦争は毎度の事であり、戦禍に慣らされて居る。而かも支那民衆の生活は大部分農業であつて、自活が可能であり、その生活力は窮乏に耐へ極めて旺盛である。此等の點から見て國民政府治下にある民衆から、對日抗戦中止乃至放棄運動が起されることは想像されない。否寧ろ奥地に於ては戦時の好景氣を來し、一切の宣傳機關は國民政府の意の儘に統制操縦せられ、抗日意識は依然旺盛なるものがあるであらう。既に軍事的にも、經濟的にも、抗戦力の大部分を失つて居る狀況に於て、若し法幣の崩落を來す事がある場合に於ては、國民生活も俄然窮迫を來し、國民政府もその存立の根本を失ふに至るのではなからうか。而して英國が法幣維持に乗り出して居る事は、如上の點から見て國民政府の存立を可能ならしむる原動力と云ひ得るのである。

そして國民政府の存立することは、實に支那民衆の思想的抗戦力の依つて立つ中心標幟であり、各國の援助を獲得し得る所以であり、又國民政府の絶へざる抗日反日宣傳は、我が占領地域の治安工作を甚だしく困難ならしめて居るのである。その上に更にソ聯邦から操縦せられる赤化分子の巧妙なる共產黨的宣傳が、支那民衆を抗日に躍らせて居る。

斯くして思想的抗戦力は、その根強き陣營に漸次分裂を來しつゝありとは云へ、その掃滅に至つて

は、軍事的、經濟的抗戦力の掃滅以上に困難なるものありと思はるゝのである。

既に國民政府は軍事上、經濟上から見れば、全く一地方政權に過ぎず、大なる抗戦力もなく又反撃に出る力もない。彼の唱へるものは單なる口先だけの長期抗戦に過ぎない。廣東失陥から受けた物心兩面の打撃が大きかつた爲、國民政府は廣東陥落後幾何もなくして廣東奪回の意圖を内外に表明したが、これは列國の援助と華僑の信頼を繋がんがための空宣傳に過ぎなかつた。最近に於ても彼は四月攻勢を大々的に宣傳し、又局部的にも多少の反撃に出て來たが、その企圖は敢へなく打破されて終つた。此等の事實は彼の軍事的抗戦力、經濟的抗戦力の減耗に伴ひ、如何に列國の援助を獲得せんとして足掻きつゝあるかを實證するものである。

四、國民政府の將來

以上國民政府の持つ抗戦力に關し、簡單なる検討を試みたのであるが、國民政府の將來に關しては彼が前述の打撃に抗し内部的の崩壊を來すことなく、何處迄列國の援助をかも得るかにある。然も列國の援助も今迄の如き精神的乃至經濟的援助を以てしては、到底國民政府として勝目がない。我國が舉國一致牢固たる決意を以てこの長期戦を押し切る限り、國民政府は結局崩壊の運命にあると云ひ得る。

昨年末汪兆銘が重慶を脱出し、爾來屢々和平に關する通電が發せられた。この問題が國民政府の抗

日陣營に甚大なる衝撃を與へ、その動搖掩ふべくもなかつたが、蔣介石は國民黨と共產黨とを巧に操縦し、抗日政府陣營の破綻を免れんと努め、最近の情勢は一時の危機から脱した感がある。

五、む す び

國民政府が没落の一途を辿りつゝある事、そしてその最後の防守線は思想的抗戦力にある事は、以上述べた所により明らかであらう。國民政府が崩壊の曉に於ては、支那民衆は抗日思想の中心勢力を失ひ、事變の前途に格段の進捗を來す事は云ふ迄もない。

然し乍ら國民政府が崩壊したとしても、尙ほ其の後に残る赤化分子や、抗日分子を中心とする抗日勢力の存在が豫想せられ、此等の勢力と對峙して、民衆獲得の争奪戦を豫期しなければならぬ事、更にソ聯邦の支那赤化政策との對抗、又國民政府潰滅後に於ては、援蔣各國は援助すべき對象を失ふことゝならうが、支那問題は尙も九ヶ國條約即ち門戸開放問題を中心として發展する可能性がある事等は、我國としてこの事變の將來に對し、餘程しつかりした決心と覺悟を以て、臨まなければならぬことを示してゐる。

昭和十四年六月五日印刷發行

發行者 内閣情報部

東京市京橋區八丁堀四丁目五番地

印刷者 不二印刷社

